

## 会 議 議 事 録

1 会議名	令和3年度長岡市市民協働推進審議会				
2 開催日時	令和4年2月10日（木曜日） 午前10時から11時30分まで				
3 開催場所	Zoomによるweb会議 (事務局：アオーレ長岡東棟3階 301会議室)				
4 出席者名	(委員) 板垣委員 恩田委員 上村委員 小林委員 佐竹委員 土田委員 山村委員 綿貫委員 (事務局) 市民協働推進部 茂田井部長 川合市民協働課長 勝沼市民協働課長補佐 大平係長 永井係長 嶋谷係長 中村主査 内山主事 海津主事 (サポート) 市民協働センタースタッフ				
5 欠席者名	星野委員 渡辺委員				
6 議題	(1) 正副会長の選任について (2) 市民協働条例制定、市民協働センターオープンから10年のあゆみ (3) コロナウイルス禍と市民活動 (4) これからの市民協働とSDGs				
7 審議結果の概要	・議題(1)について、正副会長が委員の互選により選任された。 ・議題(2)～(4)について、事務局より説明があり、委員による意見交換が行われた。				
8 審議の内容	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">1 開会</td> <td>(市民協働推進部長あいさつ) (新委員自己紹介)</td> </tr> <tr> <td>2 議事</td> <td></td> </tr> </table>	1 開会	(市民協働推進部長あいさつ) (新委員自己紹介)	2 議事	
1 開会	(市民協働推進部長あいさつ) (新委員自己紹介)				
2 議事					

事務局	<p>(1) 正副会長の選任について 委員の互選により会長、副会長を選出。</p> <p>ありがとうございました。以後の進行については、審議会規則の規定により、会長からお願いします。</p>
会長	<p>それでは議事の(2)から(3)についてを一括して事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料1、2、に基づき説明)</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>10年のあゆみの成果報告とコロナ禍の中で頑張っていたいただいた市民の活動とそれに対する支援についてご報告をいただきました。</p> <p>ご質問、ご意見がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>改めて、色々な市民活動がされたなと思って聞いておりました。今補助金の活用についてご説明がありましたが、補助金を使わなかった活動があればお聞かせください。</p>
事務局 (協働センター)	<p>補助金は使わないけれども団体を立ち上げたいという相談は数件ありました。子ども食堂でフードバンクと関わりたいとか、お子さんの孤食を救いたいとか、地域でみんなと力を合わせて何かやりたいという相談が結構多く、最近の特徴である気がします。</p>
委員	<p>補助金を使わないまでも何かやってみたいとか他の団体とマッチングしたいという要望は結構あると思うのですが今は市民協働センターに直接行くこと自体が大変で、電話なりオンラインなりで話や交流ができるといいなと思います。距離が離れているところ、例えば支所地域の相談はこの10年間でどんな動きをしてきたかお聞かせください。</p>
事務局 (協働センター)	<p>市民協働センターではスタッフが支所地域担当制を取っており、メールやズームで相談対応したり、コロナ禍ですがタイミングを見て支所に出向いたり、地域の方々から直接お話を聞くことはしておりました。</p> <p>月1回らこつてを発行していますが、その中でも各地域まんべんなく取り上げていますので、その成果も出てきて支所地域からのご相談も多くなってきたと思います。</p>

会長	<p>コロナ禍という難しい状況だからこそオンライン相談にトライしていただいているとのこと。今後に向けても、こういうツールを持てたことはいいことだと思います。例えば日時を設定してのオンライン相談会などを仕掛けてもいいかもしれませんね。またご検討いただければと思います。</p>
委員	<p>らこつてを毎月楽しみに拝見させていただいております。私は一企業という立場で参加させていただいていますが、このコロナ禍で周囲を見ても心のゆとりがなくなっている感じも受けます。その中で、こうして何とかみんなの役に立ちたいと活動を起こそうとしている人たちはとても素晴らしいと感じます。</p> <p>その人たちの想いがまっすぐ届くためにも、オンライン相談会は大事だと思います。メールでももちろんいいんですけど、やっぱり直接お顔が見えて、聞いたときにすぐこうですよと返事があるのは心強いと。生活仕様が変わってきた中で、柔軟な動きをお願いできればと思います。</p>
会長	<p>市民協働センターの役割の一つとして補助金申請の相談がありますが、それ（補助金を出すこと）は目的ではなくて手段なんですよ。そう考えるとこの相談業務はとても大きな事業の柱だと思います。委員の皆さんのご意見、この相談業務の重要性のご指摘だと思います。</p>
委員	<p>コロナ禍で、本当に色々な団体さんが何とかできることに取り組んでいることが伝わりました。</p> <p>お聞きしたいのが、コロナ禍でやりたいことができない事例は沢山あると思うんですが、逆にこの状況だからこそ新しい動きにつながったとか、うまく活かした申請があればぜひ教えていただきたいです。また、事業内容を見る限りでは、結構対面でされている事業も多い印象を受けました。この1年間はどうも状況が変わって振り回されたと思いますが、補助金を申請したけれど実施できなかった事例があればお聞かせいただきたいです。</p>
会長	<p>コロナ禍だからこそできたという話と、やろうと思ったけれどうまくいかなかった部分。この辺りも資料には出てこない部分だと思いますがよろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>今お話あったように、コロナ禍の中で皆さん非常に苦勞され、公共施設が使えなくなるかもしれない中でかなり慎重にされていました。</p> <p>資料にあります「長岡おやこ劇場」さんは親子で観劇をする団体で、</p>

	<p>コロナ禍だからこそ皆さんに本物を味わってほしいと東京から講師を招くご予定でした。その当時第5波が流行していた時期で審査にも悩み、○か×ではなくて現時点でできる会員募集チラシだけまいて、観劇はもう少し感染状況が落ち着いてからにしましょうと一旦保留とし、後ほど様子を見て実施にこぎつけたという例がありました。</p>
<p>会長</p>	<p>コロナ禍だから思いがけず市民活動が活性化したとか新しいチャレンジが出たとかそういう事例はありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>紙芝居を披露する団体さんが、今学校の給食が黙食のため、少しでも楽しい時間を過ごしてもらいたいと昔話の紙芝居の朗読をCDに録音して学校に配るという事業をされました。これは今の非対面、非接触から実現した事例かと思います。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>講演会をしたいけれどタイミングが難しいので、ネット環境を使いたいという団体も増えてきました。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>ウィメンズヘルスラボさんも、最初は長岡市の健康課と一緒にさいわいプラザで講演会をやる予定だったのですが施設が使えなくなって中止となりました。子宮頸がんのワクチンは打てる適正年齢があるのでどうしても今年度やりたい、とオンラインでの開催に挑戦しました。協働センターのスタッフもサポートに入り、初めてでしたが何とかズームで成功した事例です。</p>
<p>会長</p>	<p>いきなりオンラインでハードルが高かったと思いますが、コロナ禍でオンラインというツールも皆さん使いこなせるようになってきました。やっぱり対面がいいけど、オンラインでもある程度できるね、と思えるようになったのは大きな前進だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>オンラインではなくアナログに戻った話になりますが、子ども食堂で会食ができなくなったので、外での体験活動を始めました。</p>
<p>会長</p>	<p>こういう状況で困難や制約があると、皆さん工夫するんですね。工夫しながらやるべきことを、やらないでなくどうやったらやれるかを考え出したのはポジティブにとらえて、いい面も多かったと感じます。</p>
<p>委員</p>	<p>私は地域みんなの食堂に関わっていて、みんなでコミセンで食べることができなくなってお弁当を持ち帰る形に変えたんですが、ネット</p>

<p>会長</p>	<p>配信をして今の状況を発信したり情報交換したりして毎回100食以上売れました。みんなが「できない」という悲観的な状況でないのが非常にいいと思っています。</p> <p>また総合型スポーツクラブも関わっていますが、こちらも施設が閉鎖されない限りは感染対策をきっちりしながら活動を続けており、前向きでいいなと感じています。</p> <p>もう一つ、食生活改善推進員もやっているんですが、こちらは作って食べるということが全然できなくて、課題として持っています。</p> <p>補助金の審査会でも、支所地域から活発に提案が上がってくるのを素晴らしいと思って拝見しておりました。</p> <p>市民活動はやっぱり近い距離感でおしゃべりしながら一緒にご飯を食べることがとても大事なことでと気づかされた部分があって、そこが禁止されるのが苦しいですが、もう少しの辛抱かなと思います。</p> <p>一点確認ですが、この難しい状況で補助金の申請が上がってきて採択を決めたとしても実施できるかわからないという案件がありました。当初は実施できないものに補助金は出せないという原則でしたが、審査会の中で実施できなくてもそこに向けてしっかり準備をしてかかった経費を出さないのはあまりにも気の毒だという議論があり、かかった費用については補助金で持ちますというルールの変更をしたと記憶していますが事務局どうだったでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃられたとおり感染が急拡大してイベントができなくなれば、そこまで準備した部分については支払うという形にルールを変更させてもらいました。</p>
<p>会長</p>	<p>市民の皆さんの自発的な提案やアクションを応援する立場の中で、そこを妨げないためにはどうしたらいいか。市としてはやっていない事業に補助金を出すには各方面の説明にご苦労された部分もあろうかと思いますが柔軟に対応していただきました。</p>
<p>委員</p>	<p>補助金制度は、市民グループの皆さんの想いを形にし、そこを応援するということで非常に意義があると思っています。</p> <p>ただ、この制度をたまたま知っていたとか紹介されて利用するというだけでなく、地元に貢献したいとか課題感を持った方が表に出なくてもかなり多数いらっしゃるかと推察されます。行政の役割や使命として、制度の周知や浸透をさらに図っていただいで多くの方に届けてほしいと感じています。</p>

<p>会長</p>	<p>こんなに素晴らしい制度があるのに市民の皆さんにちゃんと届いているのかというご指摘は、毎年課題となっています。引き続き周知の努力を事務局を初め関係の皆さんで工夫していきましょう。</p> <p>補助金を使うことが目的でない先ほど申し上げたとおりですが、補助金を使う中で仲間がつながっていくところが非常に大きな効果になると思いますので引き続きお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>私たちの法人も立ち上がって16年経ちまして会員も100名に迫ります。スタートが中越地震からの復興となっていて、その活動の目的や指針は毎年しっかりと会員さんに伝えているんですが、メンバーの中でもその中身を納得して全面的に協力するという所は薄れてきた感があります。資料の中に登録団体430とありますが、なくなっている団体さんあるいはちょっと活動が停滞したりそろそろ役割終えようとする団体さんなどいるのか、教えていただきたいです。</p> <p>コロナ禍でかなりダメージを受けている企業会員さんもいらっしゃいます。今一度自分たちの活動を発信しつつSDGsに取り組みたいけれど何をしたらいいかわからない方が結構いらっしゃって、我々もこういう活動団体がいてその活動を支援することがSDGsにつながるよ、というところを明確に示せるといいなと考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>委員の法人が非常に明確なミッションを立ち上げて活動をされ成果を上げて来られた一方で、やはりミッションも時代や時間の流れの中で再定義や軌道修正が必要になったりということはあると思います。10年間を振り返った中でこういう事例があったらご紹介いただけますでしょうか。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>長く続けていると最初の想いを持った人たちが次の世代につなげられない例はあります。NPOが法人格を持ってから20年過ぎていきますので最初に法人格を持った方たちも20歳年を重ねたこととなります。実際にNPO法人を解散して任意団体になるところが最近はいます。使命は終わったと思う所と、活動は続けたいけれどももう法人格を持つ肩の荷を下ろしたい団体さんも出てきています。それを私たちは止めはせず、また別な人たちが別な想いで立ち上げれば良いと思いますのでその法人格を解散するためにどうしたらいいかを勉強しながら対応しています。</p> <p>また法人格でなく最近ではワーカーズコープなど新しい団体の立ち上げ方が出てきたりしているので、団体のミッションを聞いたりメンバーを見ながらこういうあり方がよいのではと提案しながら、起業支援セン</p>

<p>会長</p>	<p>ターさんとも連携しながら進めています。</p> <p>これもポジティブにとらえて新陳代謝なんですよね。立ち上がって、生き物として高齢化して、役割を終えて、新しいプレーヤーが出てきて、それで健全な社会なんだと思います。</p> <p>協働センターでは支援のバリエーションが広がって勉強することが増えて大変だと思いますが、大事な相談相手となっていると思いますので引き続きお願いします。</p> <p>よい意味での新陳代謝を促しつつ、新しいプレーヤーが出やすい環境づくり、動き出そうとする人たちの背中をうまく押してあげることが市民協働の重要なミッションだと思います。その根本の部分は継続しつつ、社会情勢に合わせて変化していくことをポジティブにとらえていければと思います。</p> <p>この10年間で協働センターの相談や団体の動きの変遷や変化があればお聞かせください。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>立ち上げ時からずっと協働センターのスタッフとして関わってきて、10年間で覚えるべきスキルや相談事もかなりレベルアップしてきたと思います。NPO法人のやるべき事務手続きもそうですし、マネジメントをどうするか、人をどう呼び込むか、寄付を集めるかという相談も多くなっています。</p> <p>一方で、どうやって活動を収束させるか、人に引き継いでいくかという相談もあります。</p> <p>協働センターとして大事なのは、第一歩を後押しすることだと思っています。1年2年で終わってしまう団体だったとしてもその活動をたたえてあげたいと思いますし、その一歩を踏み出せたことで別のことにつながっている方も沢山いらっしゃいます。</p> <p>コロナ禍で人が集まることがなかなかできませんが、あきらめずに人のつながりを作ることで新たな相乗効果も生まれていますし、オンライン上でつながった後直接会いに行ったという事例もあります。引き続き小さな一歩から大きな相談まで応えられる協働センターでありたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>最初から具（つぶさ）にこの変化を見てきて、相当色々なことを勉強されてきたと思います。他の協働センターの皆さんもお願いします。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>8年ほど在籍していますが、続く活動・続かない活動が明確になってきたと実感しています。続かない活動はスタート時に補助金がかかり多</p>

<p>会長</p>	<p>めに入った結果、今後自分たちで賄う当てがなくなり続かないケースです。一方で続くケースは本当に手弁当というか、最悪自分たちがちょっとずつ持ち出せばできるという活動がベースにあってプラスアルファで活動を広げていく方が続いてきた印象があります。</p> <p>これも10年続けてきてわかったことでもありますので、これから活動を始める人たち続ける人たちに「続け方」を大事にして対応していきたいと思います。</p> <p>補助金が多すぎると駄目になってしまうケースがあるんですよね。手を引っ張るような支援でなくて、背中をちょっと押すくらい、自分の足でしっかり次の一步を踏み出せるように育てていくのも市民協働の非常に重要な仕事かなと改めて思いました。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>この2年はコロナ禍でスタッフもオンラインスキルが相当上がりまして、人に教えられるところまでになりました。団体さんの需要に合ったノウハウを伝えていくことはこれからもずっと必要なことで、中間支援組織として団体さんの一歩二歩先を歩ける存在であり続けるためにスキル向上や学ぶことを継続することが重要だと感じています。</p> <p>その部分に対して長岡市からしっかり研修費をつけていただき、サポートしてもらっているのも、いい関係が10年間築けてきたおかげだと感謝しています。</p>
<p>会長</p>	<p>行政は行政の、NPOはNPOの立場がありますし強みも弱みもあります。色々ありますが良い関係というのはただ仲良しということだけでなく良い緊張関係も含めてよい関係だと思いますので、引き続き率直なコミュニケーションをしながら市民活動の支援をしていただければと思います。</p>
<p>事務局 (協働センター)</p>	<p>協働センターのスタッフになって1年ほどでコロナ禍になりました。団体さんからは、つながりがなくなりそのことで活動の縮小につながっていると聞いています。感染対策は取らなくてはいけないですが、協働センターのできる範囲で情報を届け、活動が縮小しないように頑張っていきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。それでは議題の(4)これからの市民協働とSDGsについて事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料3、4に基づき説明)</p>



<p>会長</p>	<p>今の説明に関して質問、ご意見等いかがでしょうか。昨年の審議会でSDGsの視点を取り込んでというコメントがありましたのでそれを受けて上手く融合していただきました。そもそも市民協働はこのSDGsの目指すべきところと重なるところが多かったということが重要だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>SDGsの考え方は、細かく見ていくとどれに当てはまるか難しいところがあります。自分たちの活動がどこに該当しているかを探すのではなく、「この17のうちのどれかな」位でいい気がします。修正をしながら、勉強をしながらつなげていけば、実質的にSDGsが2030年に目指すところにたどり着くのではないかなと思っています。例えば私は地元の地域で活動していますが、カーボンニュートラルを目指していてこれはゴールの15に入るかなと思っています。こんな考え方で取り組んでいくと、長岡らしいSDGsの考え方が浸透していくと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>おっしゃるとおりで、SDGsを達成することを目的に掲げてしまうと非常に重いですが、自分たちのやっていることがこの人類共通の目標のここをやってるんだよねということを確認してもらえばそれでいいんですよ。既に皆さんが取り組んでいることは必ずどれかに当てはまると思います。だから特別新しいことでなく、自分たちの活動が意味のあることで人類の役に立つことなんだということの確認に使えばそれでいいのかなと思います。</p> <p>先ほど委員からSDGsに興味がある会社がいっぱいあるというお話をいただきました。以前から議論のあるとおり、企業も市民協働のプレーヤーの一人、一つの主体です。今の時代CSRとかCSVのみならず金融機関からお金を借りる場面でもESG投資は非常に重視されていて、環境共生とか社会課題解決に資する企業活動は融資が受けやすくなっているという背景もあります。</p>
<p>委員</p>	<p>私どものNPO法人の会員さんは企業の代表の方が多いんですが、まだSDGsが言われていない時から何か会社として社会貢献したいということでメンバーに入っていた方が多いです。「震災復興活動をしている団体さんを応援しています」というところを企業として表に出して経済活動をされていたという経緯があります。今SDGsが世界的に取り上げられる中で、皆さんも単純に募金活動やイベントをするだけでなく、何かSDGsを掲げたことがしたいというご意見がとても多いです。市民団体が個性のある色々な活動をされている中身を見ると、SD</p>

	<p>G s とマッチする部分もあると感じます。</p> <p>市民活動団体が430もあることを企業の皆さんがまず知らないということ、また企業の側も市民協働センターに入る進みも遅かった印象があります。SDG s がうたわれるようになってこれはチャンスかなと感じています。</p>
会長	<p>その100社が集まる総会などはあるんですか。</p>
委員	<p>総会の案内はしておりますが、集まるのは30人位でしょうか。</p>
会長	<p>そこでマッチング会のようなものができるといいですね。総会で30社集まる場所で例えば市民団体の活動紹介とか成果報告会とか、あるいは市民協働センターの活動の全体像を紹介させてもらう時間をいただくとか。逆に市民協働センター主催の市民活動報告会に会員さんにもご案内をさせていただくとか、マッチングの手法が色々ある気がします。</p>
委員	<p>そういうことをやりたい気持ちもありますが、自分たちに本当に興味のある内容かわからない中で30人が集まるのはなかなか難しい気がします。実際に集まらなくても、ウェブ上とか紙の併用でプラットホームのところでご意見をいただきながら最終的に意見交換会まで持っていけるととてもいいと感じています。</p>
会長	<p>協働センターでは、今までも連携やマッチングを散発的には実施してきましたよね。</p>
事務局 (協働センター)	<p>広報誌のらこってでは毎月、SDG s に取り組む企業さんを紹介していますし、ラジオにも出演いただいていますその企業さんを探すのに苦労していますので、色々な企業さんを網羅している団体さんに伺うのはいいなと思いました。</p> <p>商工会議所さんにも照会していますが、また積極的に伺いたいと思います。</p>
会長	<p>企業側もSDG s や社会貢献に対する関心が高まっていますし、市民活動側も資金面だったりノウハウや人材の部分で足りないリソースを補うためにニーズはやっぱりあると思います。</p> <p>市民協働条例でうたっている「補い合う関係づくり」を新年度の一つの事業方針に掲げてもいいのではないのでしょうか。</p>

事務局	<p>市民協働課として、企業と市民活動団体をどのようにつなげていくかというところはずっと続いている課題の一つです。ご意見のとおり、SDGsの切り口でいけばつなげやすい環境ができると考えています。大々的にマッチング会などは予算の関係もありますが、私たちのできる結び付けの手段や方法を新年度も考えていきたいと思っています。</p>
会長	<p>お金はかけなくてもいいので、違ったセクターが混じり合うチャンスのある場を設定していただくことを新年度の事業の一つとして検討いただきたいということで審議会の意見としたいと思いますが、ご異論ある方いらっしゃいますか。</p>
委員	<p>長岡の企業さんでも既にSDGsに取り組んでいるところは色々あります。それ自体が求人の要件になったりもしていて、就職するときの一つの条件になっているのも現実です。ですので企業さんもそういう目でSDGsを見てらっしゃいますので、マッチングができれば本当に面白い市民活動ができるんじゃないかなと思います。</p>
会長	<p>審議会の総意として、民間企業等と市民活動団体のマッチングという部分に、新年度少し力を入れていただくということを意見として残したいと思います。</p> <p>新しいチャレンジへの機は熟したということで皆さんからご意見をいただいていますので、ぜひよろしく願いいたします。</p> <p>資料3の中の相談対応の視点として「持続可能な方法で進めているか」の部分ですが、例えば資金はあるか？人材はいるか？という視点だとスタートアップ段階の人たちには少しハードルが高まる気がして心配になりました。市民活動の趣旨と離れてしまうような。なので「持続・発展の視点を持っているか」位の柔らかい表現にしてもらえるとありがたいです。スタートアップ段階ではチャレンジの後押しをする。ただ、持続させる発展させるという意識を持っているかどうかはきちんとくみ取る、というふうにさせていただけるといいかなと思いました。</p> <p>活発にご意見をいただいてありがとうございました。以上で議事を終了します。以後の進行は、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上で、令和3年度長岡市市民協働推進審議会を終了します。</p> <p>( 閉 会 )</p>
<p>(出席委員の署名欄) 省略</p>	

9 会議資料

- ・資料1 市民協働条例制定、市民協働センターオープンから10年のあゆみ
- ・資料2 コロナウイルス禍と市民活動
- ・資料3 これからの市民協働とSDGs
- ・資料4 長岡市の協働が目指すビジョンとSDGs